

HONDA

2020年度 第1 四半期

2020年4月1日▶2020年6月30日

株主通信



株主の皆様へ

初秋の候、株主の皆様には、ますますご健勝のことと存じます。

さて、さる6月19日に開催いたしました株主総会において、「将来の成長に向けた進化」の取り組みについて、私よりご説明をさせていただきました。

2030年ビジョンの実現に向けて、現在、「既存事業の盤石化」と「将来の成長に向けた仕込み」に取り組んでいます。そして、私たちを取り巻く事業環境における大転換期、さらに新型コロナウイルス感染症の影響による人々の価値観の変化の中で、Hondaが生き残っていくために、今までの考えややり方にとらわれない改革を各事業で進める「成長に向けた進化」を目指しています。今回の特集では、こうした環境変化や、その先にあるアフターコロナの世界を見据えた、Hondaの進化への取り組みについてご紹介いたします。

2020年度第1四半期の経営成績は、1,136億円の営業損失となりました。新型コロナウイルス感染症の拡大影響による需要の大幅な減少に加え、多くの国で生産や販売活動の一時休止影響はあったものの、全社横断でコストダウン努力や経費の効率化などを実行しました。また税引前損失は、持分法による投資利益の貢献はあったものの、734億円となりました。

当年度の業績見通しは、新型コロナウイルス感染症の拡大影響により、先行きは依然不透明であるものの、収益改善に向けた取り組みを一層強化し、営業利益2,000億円を計画しています。また税引前利益は、持分法による投資利益の貢献などにより、3,650億円を計画しています。今後も体質改善に向けた取り組みを着実に進め、さらなる体質の向上を目指していきます。

当第1四半期の配当金は1株当たり11円、2020年度の年間配当金の予想につきましては1株当たり44円としました。

現在、Hondaは非常に厳しい事業環境下にありますが、足元の「既存事業の盤石化」を確実に達成しこの不透明な状況を乗り切るとともに、価値観の変化に基づく、新しいアフターコロナの世界においても、求められる価値を提供し続けるために、将来の成長に向けた仕込みはしっかりと続けてまいります。そして、そこから生まれる新しい技術・サービスを通じて、世界中のお客様の「移動」と「暮らし」に新しい価値を提供することを目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご指導ご支援を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。

2020年9月

代表取締役社長

八郷隆弘



目次

株主の皆様へ 01

特集

アフターコロナの
世界を見据えた
進化への取り組み 03

第96回 定時株主総会
のご報告 08

新製品&Topics 09

2020年度 第1四半期
連結業績ハイライト 11

事業の種類別
セグメントの状況 13

要約四半期
連結財務諸表の概要 17

株主様への
お知らせ 19

会社概要
／株式の状況 21

すべての人に“生活の可能性が広がる喜び”を提供する

Honda eMaaSの概念



HONDA
The Power of Dreams



根 庸 史

議長

HONDA



八 郷 隆 弘

■ 特集：「存在を期待される企業」であり続けるために アフターコロナの世界を見据えた進化への取り組み

モビリティを取り巻く環境が大きな転換期にある中、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大が、世界各地の人々の生活や企業の活動に大きな影を落としています。

このような不透明な事業環境が続く中で、Hondaはどのようにして「存在を期待される企業」であり続けるか。今回の特集では、これまで進めてきた、事業体質の強化に向けた取り組みの進捗状況、その中で起きたコロナ禍への対応、ならびに、アフターコロナの世界も見据えた、成長に向けた進化の方向性について、社長の八郷よりお伝えします。

人々の価値観と事業環境の変化を見据え 「成長に向けた進化」を加速する

Hondaは、持続的成長に向けた基盤づくりとして、「既存事業の盤石化」と「将来に向けた成長の仕込み」を掲げ、過去数年来、各事業領域・研究開発領域で、今までの考え方ややり方にとらわれない改革を着実に進めてきました。今年の4月からは、四輪事業の運営体制および本田技術研究所(以下、研究所)の研究・開発体制とともに刷新し始動させており、これをもって、既存事業の盤石化に向けた道筋は定まったと考えています。今後は、成果を集中的に刈り取っていく段階へと進んでまいります。

新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中で、スピーディに的確な経営判断を行い、事業への影響を最小限にとどめるとともに、「成長に向けた進化」を着実に実行することで、私たちは、アフターコロナの世界で人々が求める新しい価値を提供できる存在であり続けたいと考えています。

「既存事業の盤石化」の進捗

四輪事業の体質強化については、グローバルで生産

能力を適正化し、生産効率を上げていくとともに、従来のやり方にとらわれない開発手法の進化で、量産車の開発効率を上げる取り組みを進めています。

電動化については、2モーターハイブリッドシステム[e:HEV]の搭載を、FITを皮切りに小型車の領域に拡げ、コストダウンを進めます。またバッテリーEVについては、地域ごとに異なる法規制やニーズに合わせ、他社との協業や地域ごとに最適なりソースを積極的に活用しながら、競争力のある戦略を取っていきます。このように、今後増えていく電動車においても、収益性の向上を目指していきます。

四輪事業の組織改革としては、これまで進めてきた「S(販売)・E(生産)・D(開発)・B(購買)」の連携をさらに進化させるべく、研究所の商品開発機能を事業本部と一体化させることで、今まで以上にスピーディかつ効率的な事業運営が行える組織にしました。さらに本年度は、二輪、四輪、ライフクリエーションの幅広い商品群をつなぐ新たな事業を担う「モビリティサービス事業本部」を立ち上げ、コネクテッド技術の進化やモビリティサービスなど、新たな事業領域の強化にも力を注いでいきます。

これらの体制整備により、グローバルでお客様に喜んでいただける「強い商品」を高品質な「強いものづくり」でお届けし、将来の成長に必要な原資を生み出せる「強い事業」を実現します。

「成長に向けた進化」を実現する新しい研究所

量産車の商品開発機能を四輪事業本部に移管する一方で、研究所については、創業時の想いに立ち返り、先進技術領域の研究に専念する組織へと抜本的な刷新を図りました。

商品開発に携わる人々には、自分たちが1台1台不具合のない魅力ある商品を丁寧に作り、年間3,000万人のお客様にお届けし、喜んでいただき、事業を成長させることに集中してほしい。一方で、次世代を拓く革新的な研究を行う人々には、失敗を恐れずに果敢にチャレンジをしてもらいたい。量産車の開発と新技術の研究は、考え方や要素が全く異なりますので、それぞれが取り組むべき機能により集中できるよう、組織を進化させました。

将来の新価値創造に携わる研究所のスタッフには、「1%の成功しか望めないようなハードルの高いテーマを選び、かつそれを100%成功させる意気込みで将来の技術開発への挑戦を続けてほしい」と叱咤激励しています。中途半端な気持ちでは結果は出ません。オリンピックに出る選手が、「出るからには必ず金メダルを獲得する」という強い決意で競技に挑むからメダルが獲得できるように、我々も「未知の世界に挑んで新価値創造を100%成功させる」という強い覚悟で研究に取り組んで初めて、人々の期待を超える、移動と暮らしの新価値を生み出すことができると考えています。

感染防止対策を徹底した上での事業継続の工夫

コロナ禍の下で何よりも優先したことは、Hondaで働くすべての従業員、ならびにHondaのビジネスに関わるすべての関係者の方々の健康と安全の確保です。その上で、この数か月間、世界各地で、感染防止対策を徹底しながら事業への影響を最小化する、この双方のバランスを見極めて稼働を続けていく上での最善の方法を模索してきました。

生産領域については、工場での感染症防止対策を徹底した上で操業の判断を行ってきました。都市機能が封鎖された国々では、操業を完全に停止せざるを得ず、その間、雇用を守りつつ、従業員のモチベーションを保つことに努めました。

生産現場での感染防止対策については、各地で色々なアイデアが出ていますので、これらの意見を高位平準化しながら、国ごとの感染症拡大の推移も見つつ、従業員の健康を第一に、柔軟に対応を見極め、生産活動を進めていきます。

他方、商品開発の設計部門や本社の営業・管理部門など、オフィスで行う業務については、グローバル各拠点で在宅勤務の体制を取りました。日本では現在、密集や密接を避けるために、1日当たりの出勤人数を全体の半数程度に抑え、オフィス勤務と在宅勤務を併用する働き方などを実施しています。

現場が率先して動いた社会貢献活動

政府による都市封鎖や外出自粛要請が出される中で、私がチームHondaらしさを強く感じた出来事があ

りました。それは、現場の従業員が、Hondaのものづくりの力を活かして、感染者搬送用の車両やフェイスシールドをつくり、治療の最前線で戦っておられる医療従事者の方々にお届けしようと提案してくれたことでした。

感染者搬送用の車両とは、搬送時の感染リスクを削減するための仕切りを運転席と後部座席間に設置し、前後席間の圧力差を利用して、飛沫感染を抑制する構造に仕立てた車両です。日本でつくったところ、これを知った米国の州政府から現地オフィスに問い合わせがあり、米国でも同様の車両を自治体に提供することになりました。これ以外にもグローバル各拠点で自治体や医療機関への様々な支援を行ってきましたが、いずれも発案から実施まで、現場が主体的にアイデアを出し、モチベーションを高く持って、実現に向けた努力をしてくれました。これは非常に嬉しかったですね。

アフターコロナの世界の新しい価値観

新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐために生活様式の見直しを余儀なくされたことをきっかけに、移動や暮らしに対する人々の価値観は大きく変化しており、これがこれからの社会やHondaの企業活動の在り方

に広く影響を与えていくものと考えています。

各国で外出自粛が要請される、あるいは義務化される中、世界中で多くの方々が一様に、自由に移動できない辛さを感じておられたことと思います。したがって、アフターコロナの世界では、人と人が安全で安心な距離を保った上で、自由に移動できるパーソナルモビリティやモビリティサービスへの需要が高まっていくことが考えられます。

また、人が密集する環境で生活する不安を解消するために、自宅やサテライトオフィスなどでも勤務できる環境が整備されていくことで、結果として人々の生活基盤が、大都市一極集中型から、より地方分散型に移行していくことも考えられます。

Hondaはかねてより、2030年ビジョンの実現に向けて「クリーンで安全・安心な社会の実現をリードする」ことを最重要課題の一つに位置づけ、取り組んできました。しかし今、モビリティを提供する企業には、これまで以上に、世界中のより多くの人々に手の届く形で、クリーンで安全・安心な移動を支えていく役割が期待されていると感じています。

今回の新型コロナウイルス感染症の発生に直面し、自然の猛威は人間が容易にコントロールできるもので



感染者搬送用の車両に仕切りをセット。隙間を無くす合わせ込みが難しい



金型開発の知識を活かし、フェイスシールド用バイザーの金型を製作

はないことを改めて実感された方は多かったのではないのでしょうか。また、経済活動を止めざるを得なかったがゆえに、大気汚染が緩和され、美しい景色を取り戻した都市があったとも聞きます。こうした中、私たちは、次世代に青空を残す取り組みの手を緩めることなく、以前にも増して高まっていくであろう、人々のクリーンな環境への希求にお応えしていく必要があります。

また、これからは、モビリティを所有するだけでなく、ライドシェアのように共有するサービスも提供していく必要があると思いますが、これは単に予防安全技術や自動運転技術を搭載したモビリティだけでなく、また単なるライドシェアだけでもない、「安全に、安心して移動いただけるサービス」でなければならないと思っています。

「Honda eMaaS」の進化

Hondaは、二輪・四輪・パワープロダクツのモビリティに加え、エネルギー、ロボティクスの分野でも技術開発を進め、独自の価値を創造してきました。これらの強みを組み合わせて、移動と暮らしをより豊かにするコンセプトとして、昨年、「Honda eMaaS*」をご紹介します。このコンセプトでは、例えばパーソナルモビリティを地元の公共交通機関と連携させて、スムーズなラストワンマイルの近距離移動ができる仕組みや、再生可能エネルギーと社会インフラをつなげて循環型でクリーンな生活圏を形成するといった提案を行っています。これはアフターコロナの新しい生活様式とも親和性が高い考え方ですので、これからの時代に求められる要素を取り込んで進化させつつ、事業として成り立つ仕組みに育てていきたいと考えています。

※Honda energy Mobility as a Service。電動モビリティとエネルギーサービスがコネクテッド技術を通じてつながり、循環する技術・サービスを指す。

「新しい働き方」におけるリアルとバーチャルの両立

今年の日本での新入社員の入社式は、例年のように全員を一つの会場に集めて開催することができなかつたため、後日、500人ほどの新入社員とテレビ会議での意見交換の機会を設けました。すると、想像以上に双方向で活発なコミュニケーションを図ることができて、新鮮な手応えがありました。また、私自身も在宅勤務を行ってみて、オンラインによるコミュニケーションの効率の良さや、メリハリをつけて時間を有効に活用し、公私ともに充実させるメリットを感じました。ただ一方で、実際に人と対面し、意見を交わすことの大切さにも改めて思い至りました。Hondaはものづくりの会社ですから、最終的には直接顔を突き合わせて、きちんとすり合わせを行う場を持つことが必須です。ソーシャルディスタンスを保ちながら業務を行うためには、各事業領域によって異なる特性や働く環境にそれぞれ合わせながら、従来とは違う働き方を模索していかなければなりません。しかしその中でも、対面とオンライン、それぞれのコミュニケーションの形をどう両立させながら、業務の効率を上げていくかは、新しい生活様式に合わせた新しい働き方を模索する上での課題の一つだと思っています。

Hondaは過去、困難に直面するたびに、これを新しいチャレンジの機会と捉え、乗り越えてきました。変革期の激しい環境を生き抜く強い事業体質を固め、世界中のより多くの皆様に、アフターコロナの世界でも移動と暮らしで「生活の可能性が広がる喜び」を提供できるよう、チームHondaで、成長に向けた進化を加速してまいります。

第96回 定時株主総会のご報告

本田技研工業株式会社
第96回 定時株主総会

目的事項

1. 第96回定時株主総会（以下「本総会」といいます）の開催の承認
2. 第96回定時株主総会（以下「本総会」といいます）の開催の承認
3. 第96回定時株主総会（以下「本総会」といいます）の開催の承認
4. 第96回定時株主総会（以下「本総会」といいます）の開催の承認

議案事項
議案 取締役の監事等委員である取締役の解任（注）決議の件
以上

目的事項

1. 第96回定時株主総会（以下「本総会」といいます）の開催の承認
2. 第96回定時株主総会（以下「本総会」といいます）の開催の承認
3. 第96回定時株主総会（以下「本総会」といいます）の開催の承認
4. 第96回定時株主総会（以下「本総会」といいます）の開催の承認

議案事項
議案 取締役の監事等委員である取締役の解任（注）決議の件
以上



6月19日、東京都港区のホテル、グランドニッコー東京 台場において、第96回定時株主総会を開催しました。

開催にあたり、今年は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた適切な対策の実施を最優先の課題とし、昨年までの運営の考え方を大幅に見直しました。

まず、株主の皆様のご健康と安全の確保のため、ご自身の健康状態にかかわらず、総会当日のご来場をできるだけお控えいただくこと、代わりに、議決権行使書の郵送またはインターネットのご利用による議決権行使をしていただきたい旨のお願いを申し上げます。

当日来場された株主様には、サーモグラフィーで体表温測定を行い、アルコール消毒液で手を消毒した上でのご入場をお願いし、会場内では、常時マスク着用の徹底にご協力いただきました。また会場においては、座席の2m間隔での配置、質疑応答用のマイクの消毒、会場の常時換気、出席する役員・運営

スタッフの常時マスク着用などの対策を取りました。

総会開始後、冒頭に議長より、一連の感染防止対策の説明ならびに所要時間の短縮へのご理解とご協力をお諮りし、株主様のご承認をいただいた上で議事に入りました。報告事項の説明、当社グループの事業の取り組みに関する八郷社長からのプレゼンテーション、議案の審議を行い、議案採決の後、感染症の拡大リスクを抑えながら円滑に議事進行できたことについて議長から御礼を申し上げ、閉会しました。



◀受付にサーモグラフィーカメラを設置し体表温測定

▼会場内の様子



Hondaのホームページで第96回定時株主総会の模様をご覧ください
<https://www.irwebcasting.com/20200619/2/index.html>

スマートフォンやタブレットなどから、QRコードを読み取ってアクセスすることもできます。

QRコードから
アクセス!



(QRコードは、株式会社デンソーウェブの登録商標です。)

■ 新製品 & Topics

4月3日 ゼネラルモーターズ(GM)とHonda、GM「アルティウム」バッテリー採用のHonda向け次世代EVの共同開発に合意

GMとHondaは、GMが開発したグローバルEVプラットフォームと独自の「Ultium」バッテリーをベースに、Honda向けの新型電気自動車(EV) 2車種を共同開発することで合意しました。GMの北米の工場生産し、2024年モデルイヤーから米国およびカナダで販売を開始する予定です。今回、HondaはGMのコネクテッドサービス「OnStar」の機能を「HondaLink」に統合して活用します。また仕様によってはGMの先進運転支援技術を選択できます。両社が互いの強みを補完し合い、スケールメリットを活かすことで、電動化ロードマップの推進を加速し、温室効果ガスの排出削減の取り組みを前進させていきます。

4月6日 バイクレンタルサービス「HondaGO BIKE RENTAL」を開始

2019年から始めた国内の二輪市場活性化プロジェクトの一環として、バイクの魅力を感じただけのサービスを開始。若年層を中心とした、バイクに興味関心を持つ方を対象とし、「もっと気軽に、もっと身近に」をキーワードに、バイクへの認知と理解の促進、バイクに触れて乗れる機会の拡大を目指します。原付一種から大型二輪まで幅広いモデルを用意し、お客様のニーズに対応した料金プランや、バイクで楽しむイメージを想起しやすいサービスの展開を予定しています。



4月

3

6

5月

再生可能エネルギー活用と充電コスト低減を両立する「e:PROGRESS」を2020年中に欧州にて開始

「e:PROGRESS」は、欧州で自動車メーカー初*となるEV向けエネルギーマネジメントサービスです。電力需要が少なく、最も電力コストの安い時間帯にEVを充電し、電力需要が高まる時間帯にEVに充電した電力を建物や電力系統へ供給することで、電力需要の平準化と、再生可能エネルギー由来の電力使用拡大に貢献します。2020年中に英国で提供を開始し、順次ドイツや欧州各国に展開する予定です。



ロンドンのタウンホールに双方向充電器を設置

*2020年2月時点。Honda調べ

「N-BOX」シリーズが2019年度新車販売台数 第1位を獲得 ～3年連続 年度 新車販売台数首位獲得～

軽乗用車「N-BOX」シリーズ*1の2019年度(2019年4月～2020年3月)販売台数が247,707台*2となり、登録車を含む新車販売台数において第1位*3を獲得。新車販売台数では3年連続、軽四輪車新車販売台数では5年連続の首位獲得となります。さらに2020年上半期においても新車販売台数第1位を獲得しました。



*1 N-BOX、N-BOX + (2017年8月販売終了)、N-BOX SLASH (2020年2月販売終了)

*2 一般社団法人 全国軽自動車協会連合会(全軽自協)調べ

*3 一般社団法人 日本自動車販売協会連合会および全軽自協調べ

6月10日 中国次世代コネクテッドサービス事業に向けた進化を加速し、新たな合併会社 Hynex Mobility Service を設立

中国におけるFUNIに溢れた独自のスマートモビリティ体験の実現に向け、電動化やICV*領域での進化を加速させています。中でもHonda CONNECTを今後のモビリティ価値向上に不可欠な重要プラットフォームと位置づけ、次世代Honda CONNECTでお客様と共に成長し、頼れるパートナーのような存在としてのモビリティの早期実現を目指すため、Neusoft Reach社と新会社を設立。革新的なモビリティサービス価値の実現を目指します。

*Intelligent Connected Vehicleの略称

6月

6月11日「CLARITY FUEL CELL」個人のお客様向けリースの取り扱いを開始

Hondaは30年以上にわたり水素技術・燃料電池自動車の研究開発に取り組む、2016年から開始した自治体・企業向けリースを通じて、お客様の日常の使い方や走行性能などの各データの検証、水素ステーションの拡充状況とお客様の使い勝手を踏まえた販売検討を進めてきました。これからも長年培ってきた水素技術を含めたカーボンフリー社会の早期実現に向けた取り組みを継続・拡大していきます。

10 11

6月26日 新型の原付二種 レジャーモデル「CT125・ハンターカブ」を発売

機能的でタフなイメージと、現代の生活スタイルとの調和を図った独自の存在感を主張するデザインが特徴。市街地からトレッキングまで幅広い走行状況を想定し、普段使いの気軽さに加えて、郊外へのツーリングやキャンプなど様々なアウトドアレジャーへの移手段として、楽しみをより一層広げる機能性を備えています。



26

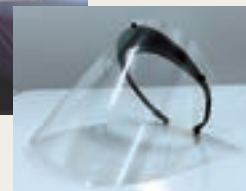
新型コロナウイルス感染症の拡大防止にむけた支援活動について

新型コロナウイルス感染症の拡大防止にむけ、日本では感染者を搬送するための車両(仕立て車)を、東京都、埼玉県、三重県、栃木県などの自治体へ納車しました。またフェイスシールドを生産し、自治体を通じて順次、医療現場の皆様へ提供しています。このほか、世界各地で、感染症の予防に役立てていただくため、二輪車、四輪車、動力噴霧器やポンプなど自社製品や、医療用品の提供に取り組んできました。

Hondaは新型コロナウイルス感染症の一日でも早い収束を願い、最前線で戦い続ける皆様へ敬意を表するとともに、今「人のために、できること」に、一つひとつ取り組んでまいります。



▲感染者搬送に対応した仕立て車



▶フェイスシールド

最新のニュースはこちらをご覧ください。

Honda ニュースリリース 検索

<https://www.honda.co.jp/pressroom/>

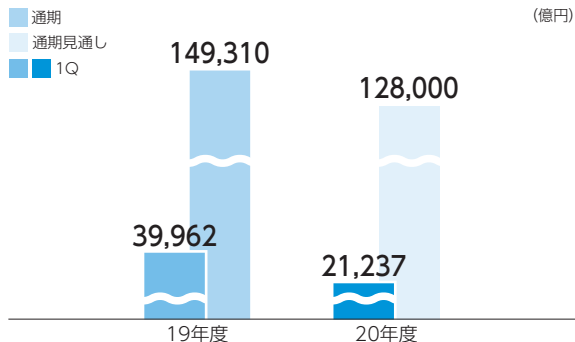


2020年度 第1四半期 連結業績ハイライト

(2020年4月1日～2020年6月30日)

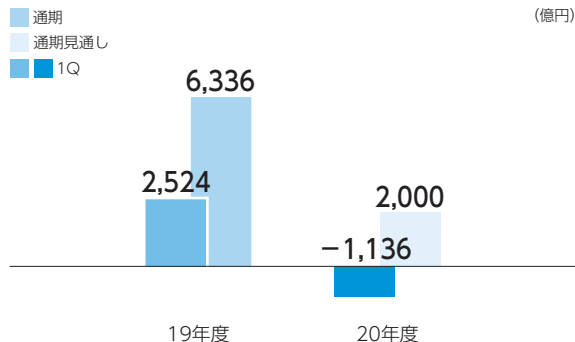
売上収益

2兆 1,237 億円 前年同期比 -46.9%

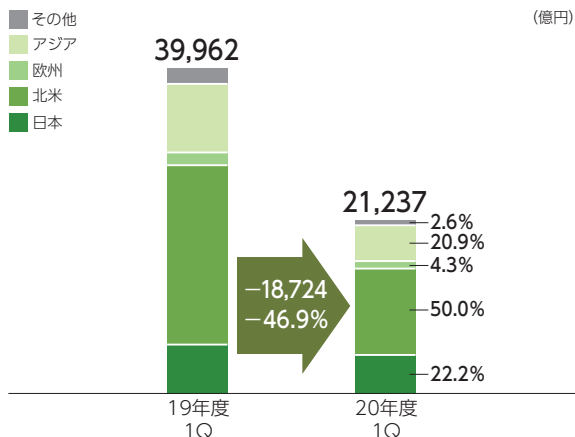


営業利益

-1,136 億円 前年同期比 -3,661 億円

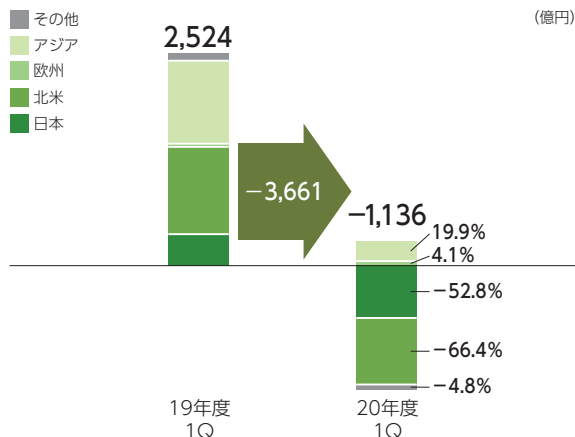


所在地別売上収益



※ 外部顧客への売上収益のみを表示
 ※ 20年度1Qの%は所在地別の構成比

所在地別営業利益

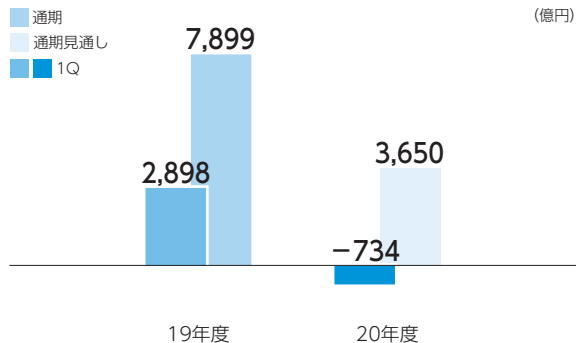


※ %は営業利益（損失）構成比（「消去または全社」を除く）

北米：米国、カナダ、メキシコ など 欧州：英国、ドイツ、ベルギー、イタリア、フランス など アジア：タイ、インドネシア、中国、インド、ベトナム など その他：ブラジル、オーストラリア など

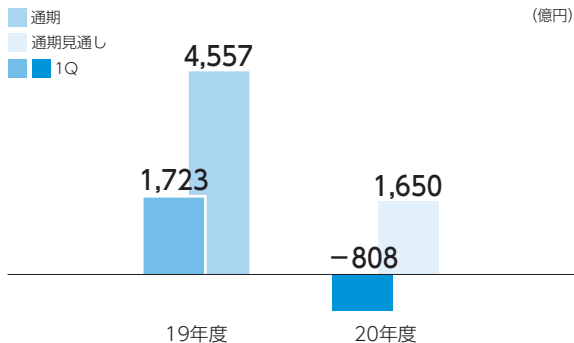
税引前利益

-734 億円 前年同期比 -3,632億円

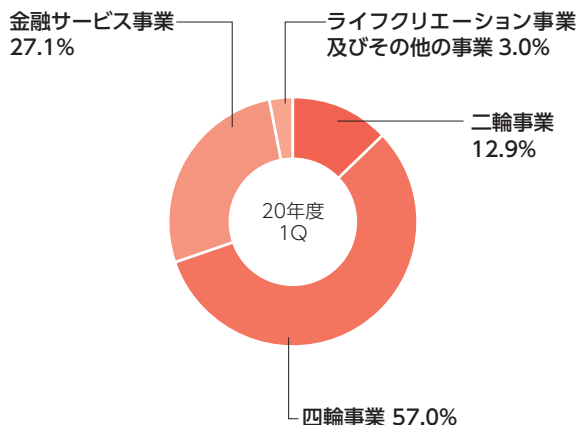


親会社の所有者に帰属する四半期(当期)利益

-808 億円 前年同期比 -2,531億円

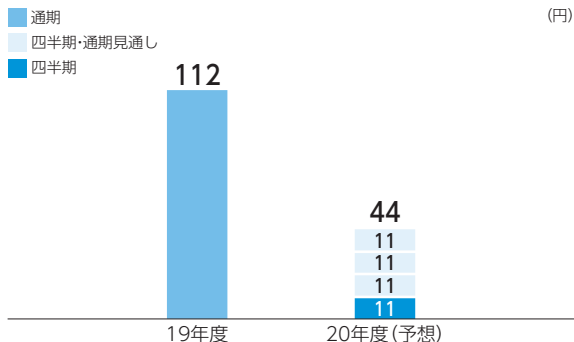


事業別売上収益構成



配当金

11 円



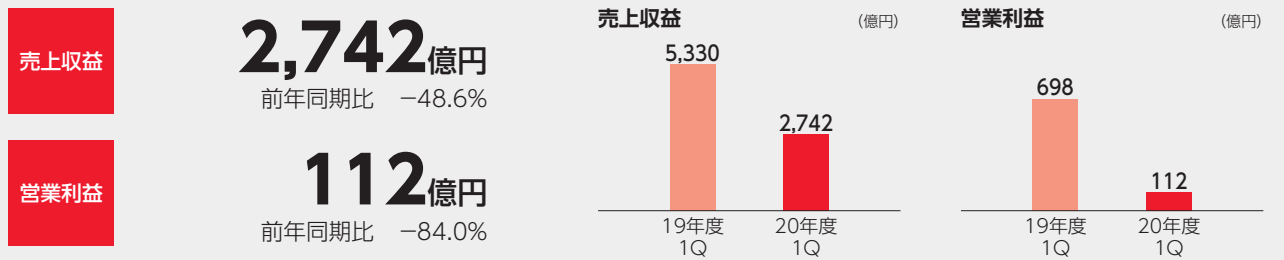
※ 当第1四半期の平均為替レートは1米ドル=108円(前年同期110円)です。

※ 業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき当社の経営者が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。

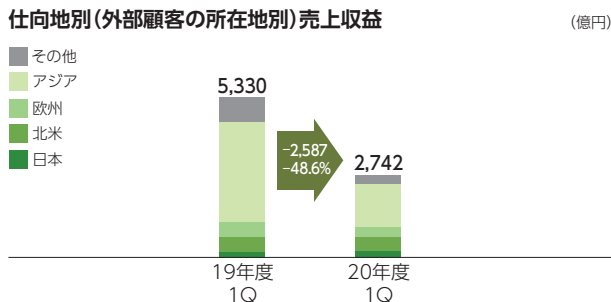
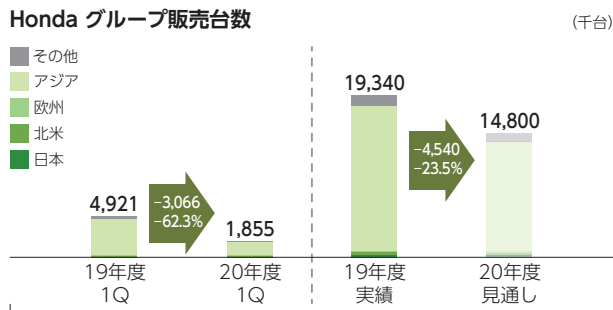
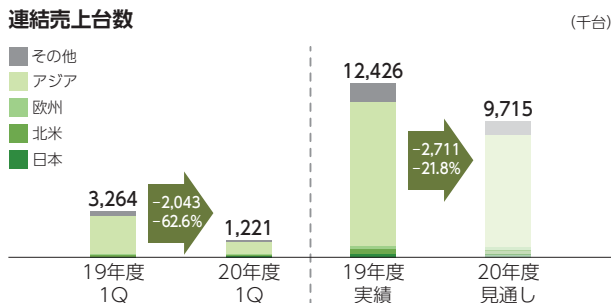
※ 見通しの為替レートは、通期平均で1米ドル=106円を前提としています。

事業の種類別セグメントの状況

二輪事業



二輪事業の外部顧客への売上収益は、連結売上台数の減少などにより、2,742億円と前年同期にくらべ48.6%の減収となりました。営業利益は、販売費及び一般管理費の減少などはあったものの、台数変動及び構成差に伴う利益減などにより、112億円と前年同期にくらべ84.0%の減益となりました。

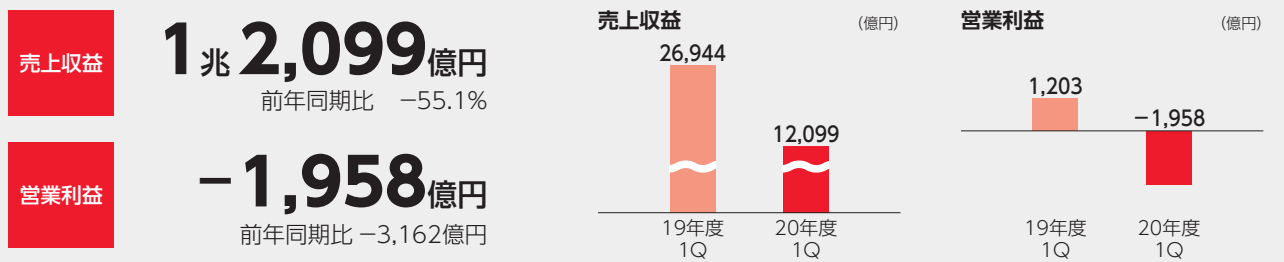


■ 当第1四半期の主要市場における販売実績
中国や米国での好調な販売はあったものの、主にアジアやブラジルで生産・販売活動を休止したことが影響し減少

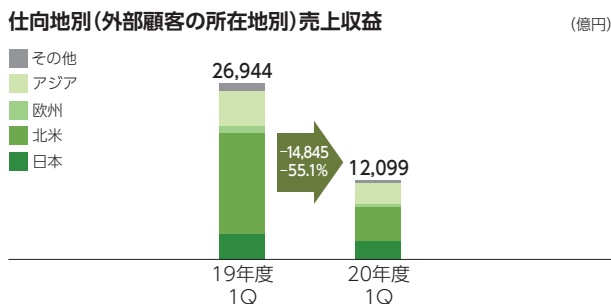
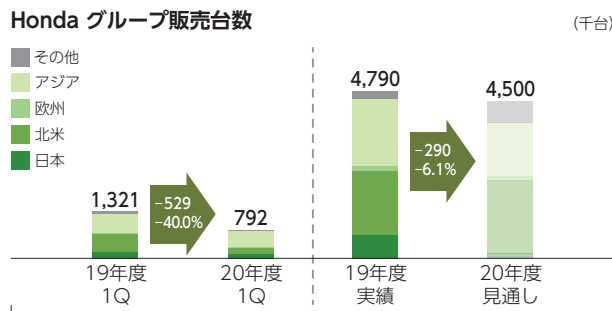
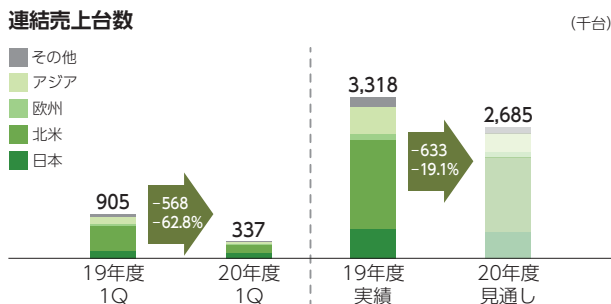
■ 2020年度販売見通し
中国での増加はあるものの、インドネシアやインドなどで減少し、前年比-23.5%の1,480万台の見通し
➤ 魅力ある商品の投入を軸にシェア拡大を目指す

※ Hondaグループ販売台数は、当社および連結子会社、ならびに持分法適用会社の完成車(二輪車・ATV・Side-by-Side)販売台数です。一方、連結売上台数は、外部顧客への売上収益に対応する販売台数であり、当社および連結子会社の完成車販売台数です。

四輪事業



四輪事業の外部顧客への売上収益は、連結売上台数の減少などにより、1兆2,099億円と前年同期にくらべ55.1%の減収となりました。営業損失は、販売費及び一般管理費の減少などはあったものの、台数変動及び構成差に伴う利益減などにより、1,958億円と前年同期にくらべ3,162億円の減益となりました。



■当第1四半期の主要市場における販売実績

- 中国などで増加はあったものの、米国、日本、インドなどで減少
- 【北米】米国では前年同期を下回ったが、3か月累計で乗用車市場で販売台数首位を獲得
- 【アジア】中国ではBreezeの投入効果やCivicの好調な販売などはあったものの、生産休止に伴い市場への供給が不足
- 【日本】新型Fitの好調な販売はあったものの、3か月累計では前年同期を下回る

■2020年度販売見通し

- 中国での増加はあるものの、米国やインドネシアなどで減少し、前年比-6.1%の450万台の見通し
- ▶米国では3月に発売したCR-V Hybridのような魅力的な商品を提供していく
- ▶中国では新型車投入効果や工場フル稼働による市場への供給回復による販売の拡大を目指す
- ▶日本では新型FitやN-BOXなど主力機種に加え、新型車投入効果などにより販売の拡大を目指す

※ Hondaグループ販売台数は、当社および連結子会社、ならびに持分法適用会社の完成車販売台数です。一方、連結売上台数は、外部顧客への売上収益に対応する販売台数であり、当社および連結子会社の完成車販売台数です。また、当社の日本の金融子会社が提供する残価設定型クレジットが、IFRSにおいてオペレーティング・リースに該当する場合、当該金融サービスを活用して連結子会社を通して販売された四輪車は、四輪事業の外部顧客への売上収益に計上されないため、連結売上台数には含めていませんが、Hondaグループ販売台数には含めています。

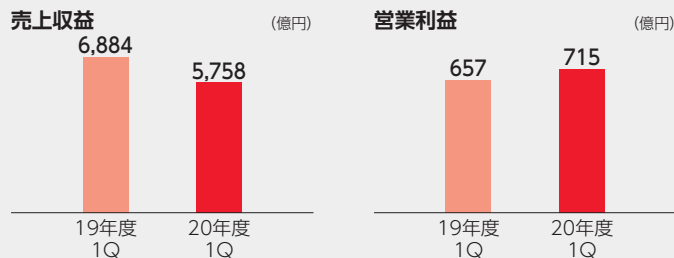
金融サービス事業

売上収益

5,758億円
前年同期比 -16.4%

営業利益

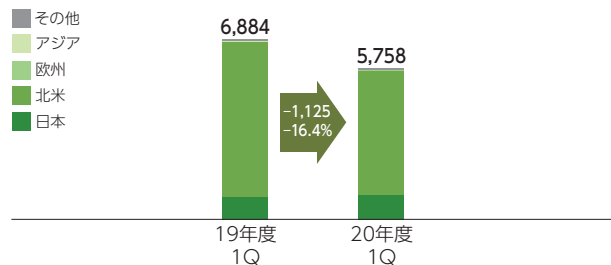
715億円
前年同期比 +8.8%



金融サービス事業の外部顧客への売上収益は、リース車両売却売上の減少などにより、5,758億円と前年同期にくらべ16.4%の減収となりました。営業利益は、販売費及び一般管理費の減少などにより、715億円と前年同期にくらべ8.8%の増益となりました。

仕向地別 (外部顧客の所在地別) 売上収益

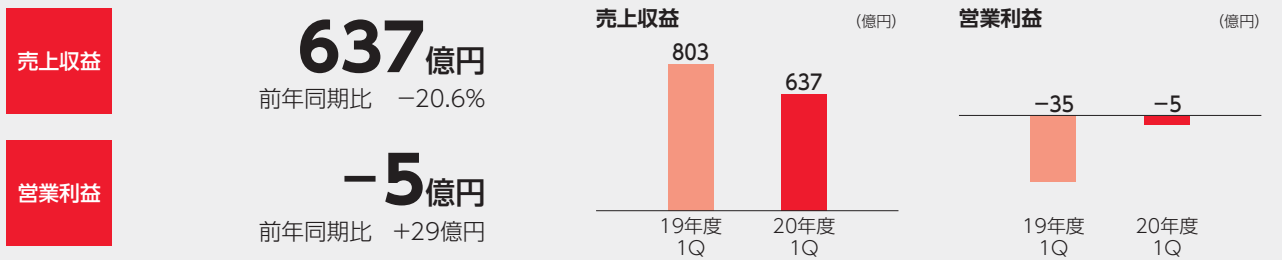
(億円)



金融サービス事業とは (ご参考)

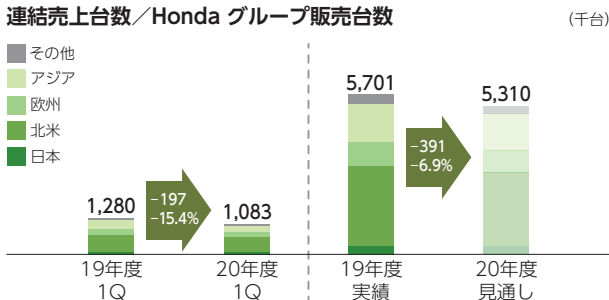
お客様が製品を購入する際のローンやリースなどのサービスの提供を行っており、主に四輪車の販売に関連するものです。

ライフクリエーション事業及びその他の事業



ライフクリエーション事業及びその他の事業の外部顧客への売上収益は、ライフクリエーション事業の連結売上台数の減少などにより、637億円と前年同期にくらべ20.6%の減収となりました。営業損失は、台数変動及び構成差に伴う利益減などはあったものの、研究開発費の減少や販売費及び一般管理費の減少などにより、5億円と前年同期にくらべ29億円の改善となりました。なお、ライフクリエーション事業及びその他の事業に含まれる航空機および航空機エンジンの営業損失は、71億円と前年同期にくらべ20億円の改善となりました。

連結売上台数／Honda グループ販売台数



当第1四半期の主要市場における販売実績

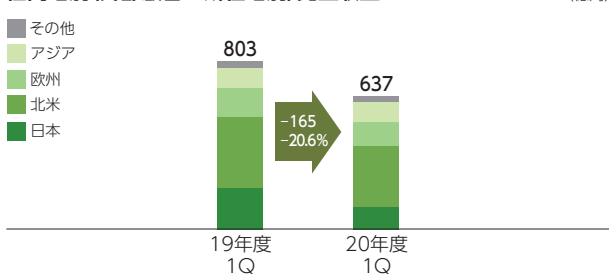
- 【北米】 建機搭載用のGXエンジンや芝刈機などが減少
- 【アジア】 中国で欧州・東南アジア向け輸出用のGX/GCVエンジンなどが減少
- 【欧州】 建機搭載用のGXエンジンなどが減少

2020年度販売見通し

前年比-6.9%の531万台の見通し

※ Hondaグループ販売台数は、当社および連結子会社、ならびに持分法適用会社のパワープロダクツ販売台数です。一方、連結売上台数は、外部顧客への売上収益に対応する販売台数であり、当社および連結子会社のパワープロダクツ販売台数です。なお、当社は、パワープロダクツを販売している持分法適用会社を有しないため、ライフクリエーション事業においては、Hondaグループ販売台数と連結売上台数に差異はありません。

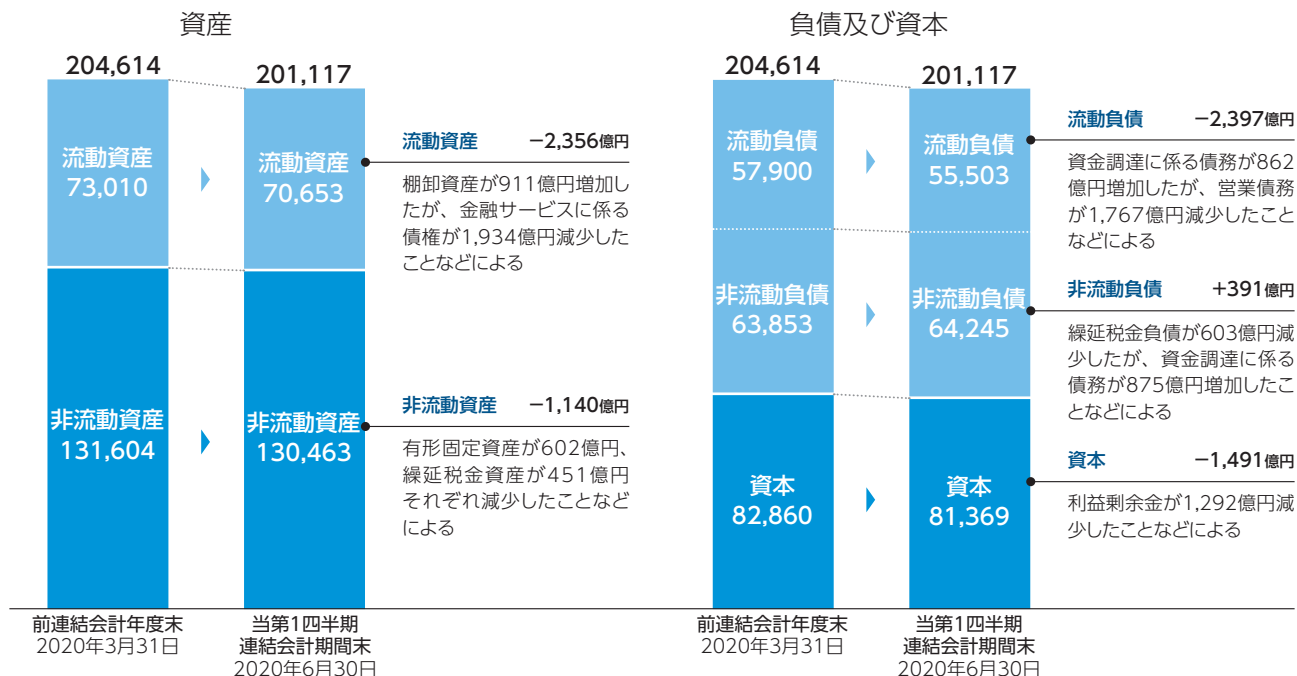
仕向地別(外部顧客の所在地別)売上収益



要約四半期連結財務諸表の概要

要約四半期連結財政状態計算書

(億円)



連結財政状態の概況

(前会計年度末との比較)

✓ 総資産

棚卸資産の増加などはあったものの、金融サービスに係る債権、現金及び現金同等物、有形固定資産の減少などにより、3,497億円の減少

✓ 負債

資金調達に係る債務の増加などはあったものの、営業債務、未払費用、繰延税金負債の減少などにより、2,006億円の減少

✓ 資本

四半期損失による利益剰余金の減少などにより、1,491億円の減少



決算関連資料は、当社Webサイトにてご覧いただけます。



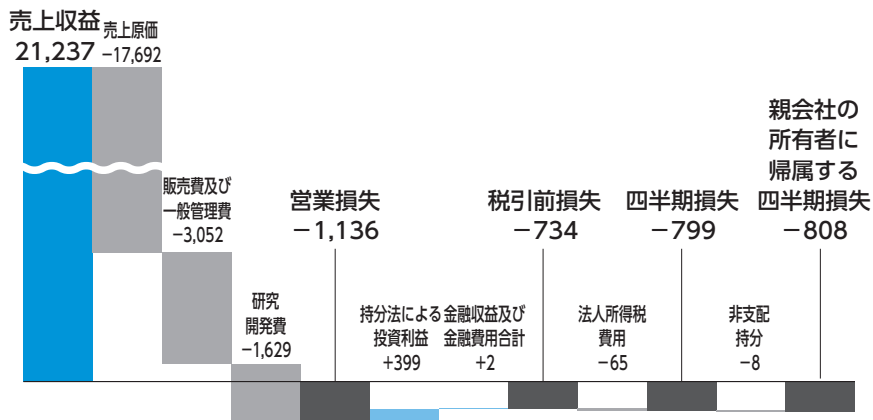
<https://www.honda.co.jp/investors/library/financialresult.html>

QRコードはこちら➡



要約四半期連結損益計算書

(億円)



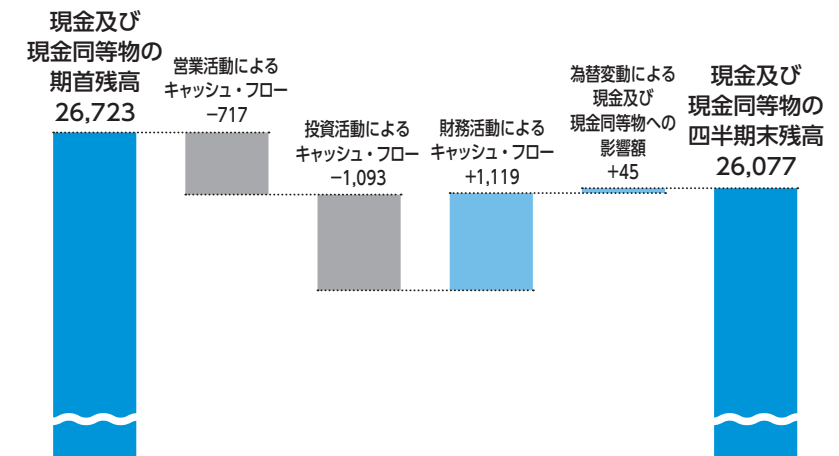
当第1四半期連結累計期間
自 2020年4月1日 至 2020年6月30日

連結経営成績の概況 (前年同期との比較)

- ✓ **売上収益**
全ての事業における減少などにより、46.9%の減収
- ✓ **営業損失**
販売費及び一般管理費の減少などはあったものの、売上変動及び構成差に伴う利益減などにより、3,661億円の減益
- ✓ **税引前損失**
3,632億円の減益
- ✓ **親会社の所有者に帰属する四半期損失**
2,531億円の減益

要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)



当第1四半期連結累計期間
自 2020年4月1日 至 2020年6月30日

連結キャッシュ・フローの概況 (前年同期との比較)

- ✓ **営業活動によるキャッシュ・フロー**
部品や原材料の支払いの減少などはあったものの、顧客からの現金回収の減少などにより、2,673億円の増加
- ✓ **投資活動によるキャッシュ・フロー**
その他の金融資産の取得による支出や有形固定資産の取得による支出の減少などにより、588億円の減少
- ✓ **財務活動によるキャッシュ・フロー**
資金調達による収入の増加などにより、1,957億円の増加

株主様へのお知らせ

2020年度 株主様ご視察会 **応募制** 対象：2020年6月末時点で一単元(100株)以上の当社株式をご所有の株主様

Hondaの事業活動をより一層ご理解いただきたく、株主様ご視察会を開催いたします。開催にあたっては新型コロナウイルス感染症の拡大防止措置を徹底いたします。ご希望のレース1つをお選びいただき、ご応募ください。

- ※ 新型コロナウイルス感染症の拡大状況によってはレースが中止、又は観戦席数を縮小する可能性があります。それに伴い株主様のご招待も中止または招待数を縮小させていただく場合がございます。中止となった場合は観戦券は無効となります。
- ※ 厳正なる抽選の上、**当選発表につきましては当選者へのご連絡をもってかえさせていただきます。(10月中旬発送予定)**
当選案内のお届け先は、2020年6月末時点の株主名簿に記載の住所・氏名とさせていただきます。転居等でご住所に変更がある場合は、お取引のある口座管理機関(証券会社等)にご連絡ください。

レースご招待 **A B**

募集人数 合計2,000名

■ SUPER GT **A** 募集人数1,000名



2020 AUTOBACS SUPER GT シリーズ 第7戦

https://www.twinring.jp/supergt_m/

レースの詳細情報はこちら

2020年11月7日(土)・8日(日) (開催場所：ツインリンクもてぎ)

2020年から新たな技術規則を採用するSUPER GTシリーズGT500クラスにホンダは新型の「NSX-GT」を投入し、更に昨年のSGT300クラスチャンピオンの福住仁嶺選手、F3ASIAチャンピオンの笹原右京選手を迎え入れ5チーム体制で国内最高峰レースのチャンピオン奪回を目指します。



■ スーパーフォーミュラ/ツーリングカーレース **B** 募集人数1,000名



2020年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第5戦

2020年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第6戦

第19回JAF鈴鹿グランプリ

<https://www.suzukacircuit.jp/superformula/>

レースの詳細情報はこちら

2020年12月5日(土)・6日(日) (開催場所：鈴鹿サーキット)

日本一速いドライバーの称号をかけて行われる国内最高峰のフォーミュラカーレース。今年チーム体制の変更を行い、新たにレッドブル・ジュニアチームの一員であるユーリ・ビップス選手、コロンビア出身の女性ドライバーであるタチアナ・カルデロン選手を迎え入れ、国内最高峰レースのチャンピオン奪回を目指します。

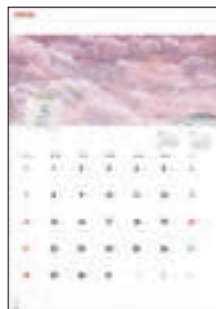


- ※ 上記2つのレースのうち、いずれか1つにご応募いただけます。当選の場合、ご来場の株主様に加えて、同行者1名様までご入場いただけます。
- ※ ご来場の株主様および同行者1名様には、鈴鹿サーキット ゆうえんちモートピアまたはツインリンクもてぎ モビパークの「のりものパスポート」が付属いたします。「のりものパスポート」は、ご来場のレース・イベントのご入場可能日のうち1日限り有効です。
- ※ 開催場所または最寄駅までの交通費・駐車料金等は、株主様のご負担とさせていただきます。

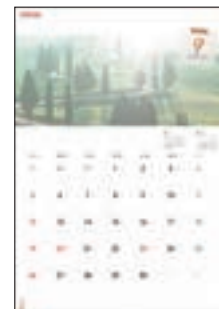
2021年 Hondaカレンダー 応募制 対象:2020年6月末時点で一単元(100株)以上の当社株式をご所有の株主様

2021年のHondaカレンダーを、ご応募いただいた対象の株主様全員に1部ずつ進呈いたします。

- ※ 昨年2020年 Hondaカレンダーにご応募いただき、同一の株主番号(全株売却無し)で2020年6月末時点で一単元(100株)以上ご所有の株主様には、今回お申し込みいただかなくても引き続き2021年 Hondaカレンダーをお届けいたします。
- ※ カレンダーは、11月下旬から順次2020年6月末時点の株主名簿に記載のご住所にお届けする予定です。ご住所に変更がある場合は、お取引のある口座管理機関(証券会社等)までご連絡ください。
- ※ カレンダーはA4(見開きA3)サイズです。右記写真はイメージであり、デザインを一部変更する場合がありますのでご了承ください。



3月(イメージ)



9月(イメージ)

新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた対応

- 例年実施しております事業所ご視察会(工場見学)について慎重に検討を重ねてまいりましたが、当社事業所において多数の方が来場された場合に、感染拡大防止措置の徹底が困難であるため、株主様の安全・安心を最優先に考慮し開催中止を判断いたしました。
- 2019年6月下旬にご送付した、鈴鹿サーキットとツインリンクもてぎの優待券につきましては施設の休園が続いたことから**有効期限を2020年10月末日まで**とさせていただきます。

※ ご来園に当たっては各施設のHPIにて営業日・ご利用可能日をご確認いただけますようお願い申し上げます。
URL (<https://www.mobilityland.co.jp/>)

お申し込み方法 | 応募締切日 2020年9月23日(水) ※当日必着



インターネットの場合

右記のQRコードまたはURL(<https://enq.bz/zPyPD>)よりお申し込みページにお入りいただき、応募ハガキに記載のID・パスワードをご入力の上、お申し込みください。



応募ハガキの場合

応募希望の記号等を記入の上、ご郵送ください。

- ※ ご視察会へのご応募は、「インターネット」または同封の「応募ハガキ」によりレースA・Bのいずれか1つのみお受けいたします。複数のご応募は無効となりますのでご注意ください。
- ※ インターネットと応募ハガキの両方でお申し込みがあった場合は、インターネットでのお申し込みを有効とさせていただきます。

株主優待に関するお問合せは「Honda株主優待係」まで

0120-335-312 (通話料無料) (平日9:00~17:00 土・日・祝日を除く)

■ 会社概要 / 株式の状況 (2020年6月30日現在)

会社概要

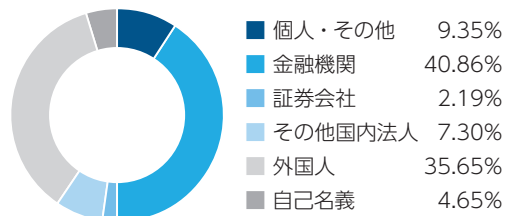
社名	本田技研工業株式会社	設立年月日	1948年(昭和23年)9月24日
英文社名	HONDA MOTOR CO., LTD.	資本金	86,067,161,855円
本社	東京都港区南青山二丁目1番1号(〒107-8556)	主な製品	二輪車・四輪車・パワープロダクツ

株式の状況

発行済株式の総数 1,811,428,430 株

株主数 214,139 名

株式の所有者別分布状況



大株主

氏名または名称	持株数(千株)	出資比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	149,242	8.64
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	123,027	7.12
エスエスピーティシー クライアント オムニバス アカウント	57,158	3.30
モックスレイ・アンド・カンパニー・エルエルシー	55,998	3.24
明治安田生命保険相互会社	51,199	2.96
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	44,074	2.55
東京海上日動火災保険株式会社	35,461	2.05
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	32,459	1.87
ジェーピー モルガン チェース バンク 385781	29,475	1.70
日本生命保険相互会社	28,666	1.65

- (注) 1. 株数は千株未満を切り捨てて表示しております。
 2. 出資比率は、発行済株式の総数から自己株式(84,156千株)を控除して算出しております。
 3. モックスレイ・アンド・カンパニー・エルエルシーは、ADR(米国預託証券)の預託機関であるジェーピー モルガン チェース バンクの株式名義人です。

株式事務のご案内

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 第1四半期末配当 毎年6月30日 第2四半期末配当 毎年9月30日 第3四半期末配当 毎年12月31日

上場証券取引所 国内：東京証券取引所
 海外：ニューヨーク証券取引所

単元株式数 100株

株主名簿管理人および特別口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 三菱UFJ信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎ 0120-232-711(フリーダイヤル)

公告方法 電子公告により行います。
 ただし、事故その他、やむを得ない事由により電子公告による公告をすることができない場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載して行います。
 [公告掲載 URL]
<https://www.honda.co.jp/investors/library/notice.html>

証券コード 7267

住所変更、配当金のお受け取り方法の指定・変更、単元未満株式の買取・買増

株主様の口座がある証券会社等にお申し出ください。

※特別口座に株式が記録されている場合は、三菱UFJ信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払配当金の支払

三菱UFJ信託銀行 ☎ 0120-232-711

■ Memo

A series of horizontal dashed lines for writing a memo.

HONDA

The Power of Dreams

証券コード：7267

株主通信 No.186

本田技研工業株式会社

発行 人事・コーポレートガバナンス本部 総務部

〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1

<https://www.honda.co.jp>

表紙の写真：グローバルHondaにおける新型コロナウイルス感染防止にむけた支援活動

UD FONT

